



解き明かされた寺院の規模

⑤史跡陸奥国分寺跡（仙台市若林区木ノ下）



▲調査区と主な建物の配置

仙台市若林区にある奈良・平安時代の寺院跡です。聖武天皇の発案で建てられた国分寺のひとつで、全国の国分寺のなかでは最も北に位置しています。

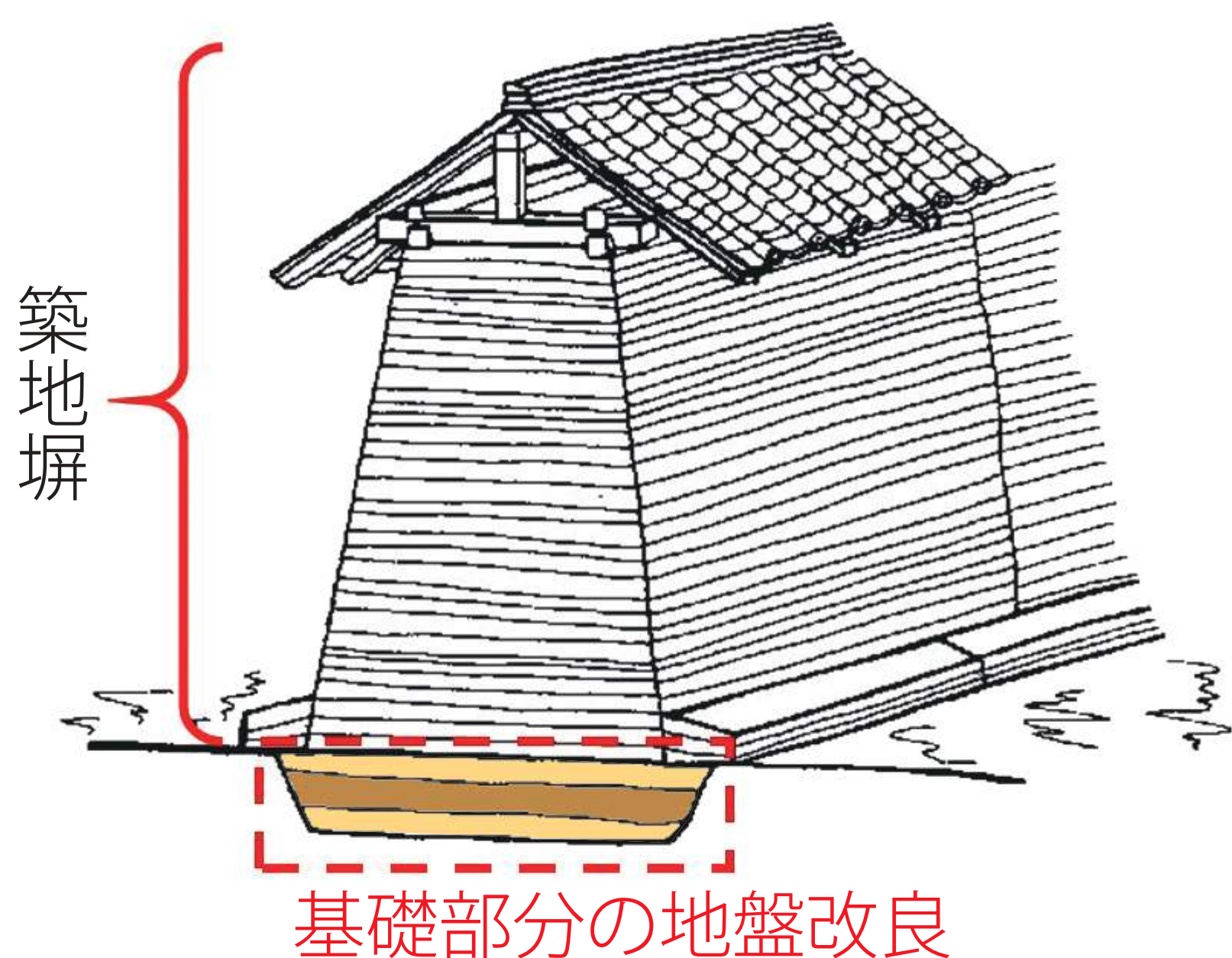
昭和 30 年に初めて発掘調査が開始され、昭和 47 年以降、仙台市教育委員会により発掘調査が行われています。過去の調査では、寺院の南・東・西辺にあたる築地塀と溝がみつかっています。

今回寺院の北方を調査した結果、築地塀にともなう地盤改良の痕跡と溝跡がみつかりました。これにより寺院の北辺が解明され、陸奥国分寺は東西約 240m、南北約 270m の規模であったことがわかりました。

旧石器 縄文 弥生 古墳 飛鳥 奈良 平安 鎌倉 室町 安土桃山 江戸 明治



▲築地塀・溝の検出状況（南から）



▲築地塀のイメージ図



▲築地塀の地盤改良の痕跡

築地塀は土を積み上げ、叩き締めることを繰り返してつくられた土塀です。塀の沈下を防ぐために、地下を掘り込み、土を敷いて叩き締め、地盤を改良することもあります。今回の調査では、この地盤改良の痕跡が東西28.6mの範囲で確認されました。寺院の南辺・東辺でも地盤改良の痕跡がみつかっており、奈良時代の土木技術を駆使して陸奥国分寺が造営されたことがわかります。

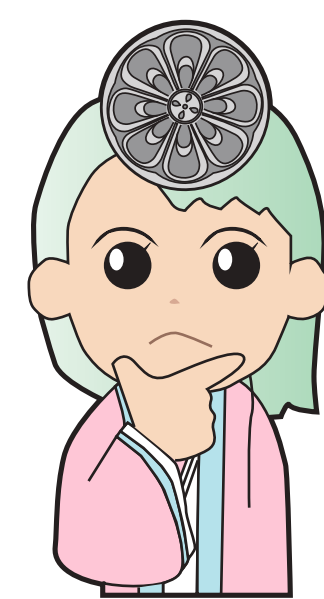
RENGEMON CHAT



ちょうさいんさん

どうして国分寺が建てられたの？

聖武天皇が国を治めた天平年間（729～749）には、大地震や天然痘の流行など、国難が多発しました。そこで天皇は仏教によって国家を護ろうとする「鎮護国家思想」に基づき、都に東大寺、諸国に国分寺を建てて安寧を祈りました。



れんげもんちゃん

協力：仙台市教育委員会